



2015年3月期
決算説明会

2015年4月24日
株式会社トーマンデバイス

本資料に掲載されている株式会社トーメンデバイスの業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確実の要因によっては、大きく変化する可能性があります。従って、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。また、本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますようお願い申し上げます。

I

2014年度 決算概況

II

2015年度 見通し

III

2015年度 商品別の重点取り組み

連結業績サマリー



円安進行により営業利益は増益となった一方、
為替差損の増加により経常利益は減益、当期純利益は微増

(単位:百万円)

	2013	2014	増減額 (対2013)	増減率 (対2013)
売上高	174,654	171,882	△2,772	△1.6%
売上総利益	4,842	4,591	△251	△5.2%
営業利益	2,364	2,435	+71	+3.0%
経常利益	1,867	1,681	△186	△10.0%
当期純利益	1,051	1,056	+4	+0.5%
総資産	51,228	54,603	—	+6.6%
純資産	23,563	24,637	—	+4.6%
1株当たり純資産(円)	3,457.33	3,612.04	—	—
自己資本比率	45.9%	45.0%	—	—
年間配当金(円)	40.00	40.00	0.00	0.0%

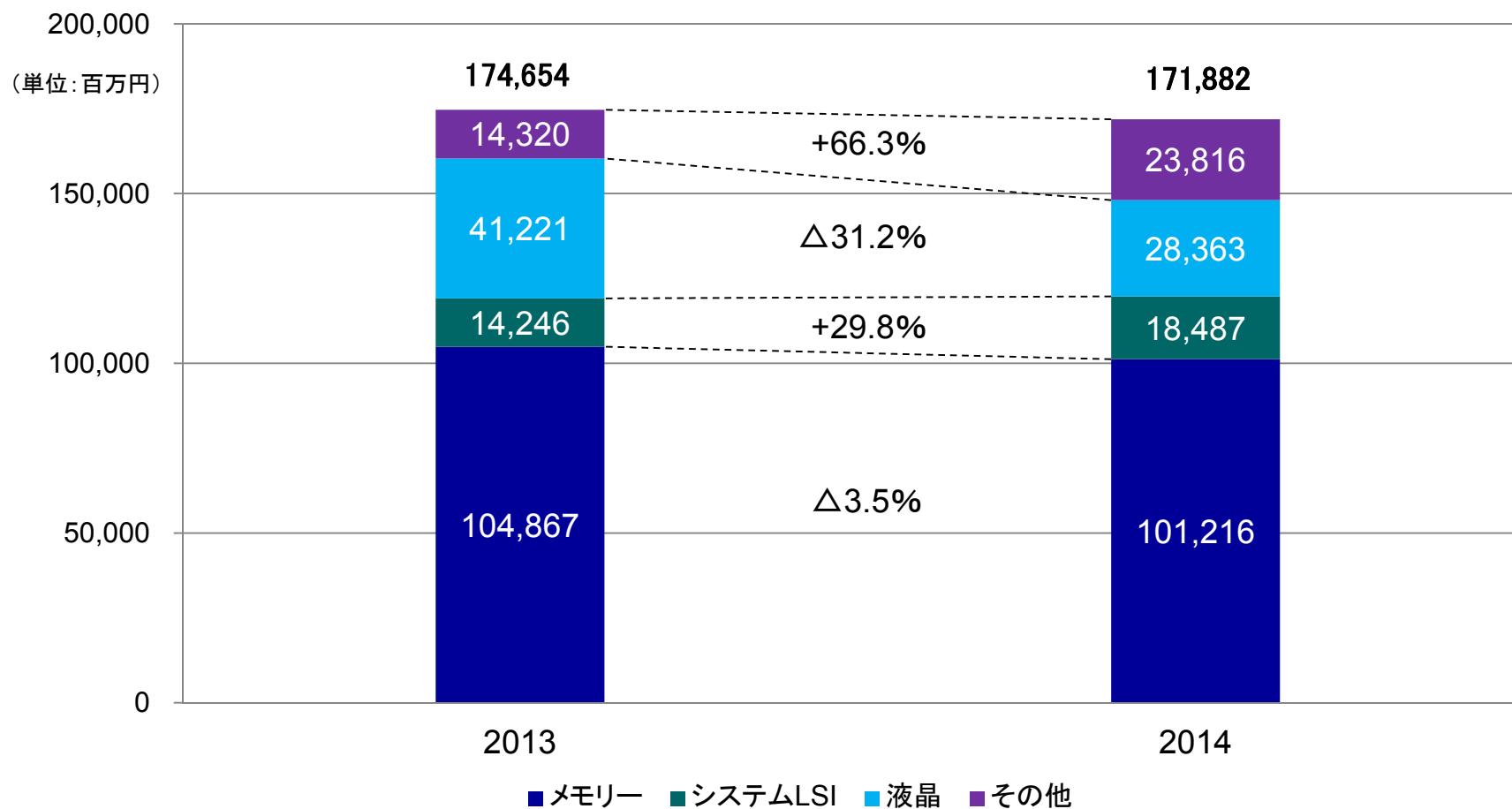
Positive

- 4KTVの黎明期～TV販売に復調の兆し
- タブレット向け有機ELの販売が好調
- 中国市場:スマートフォン需要が旺盛
- クラウドサーバー出荷台数は順調な伸び

Negative

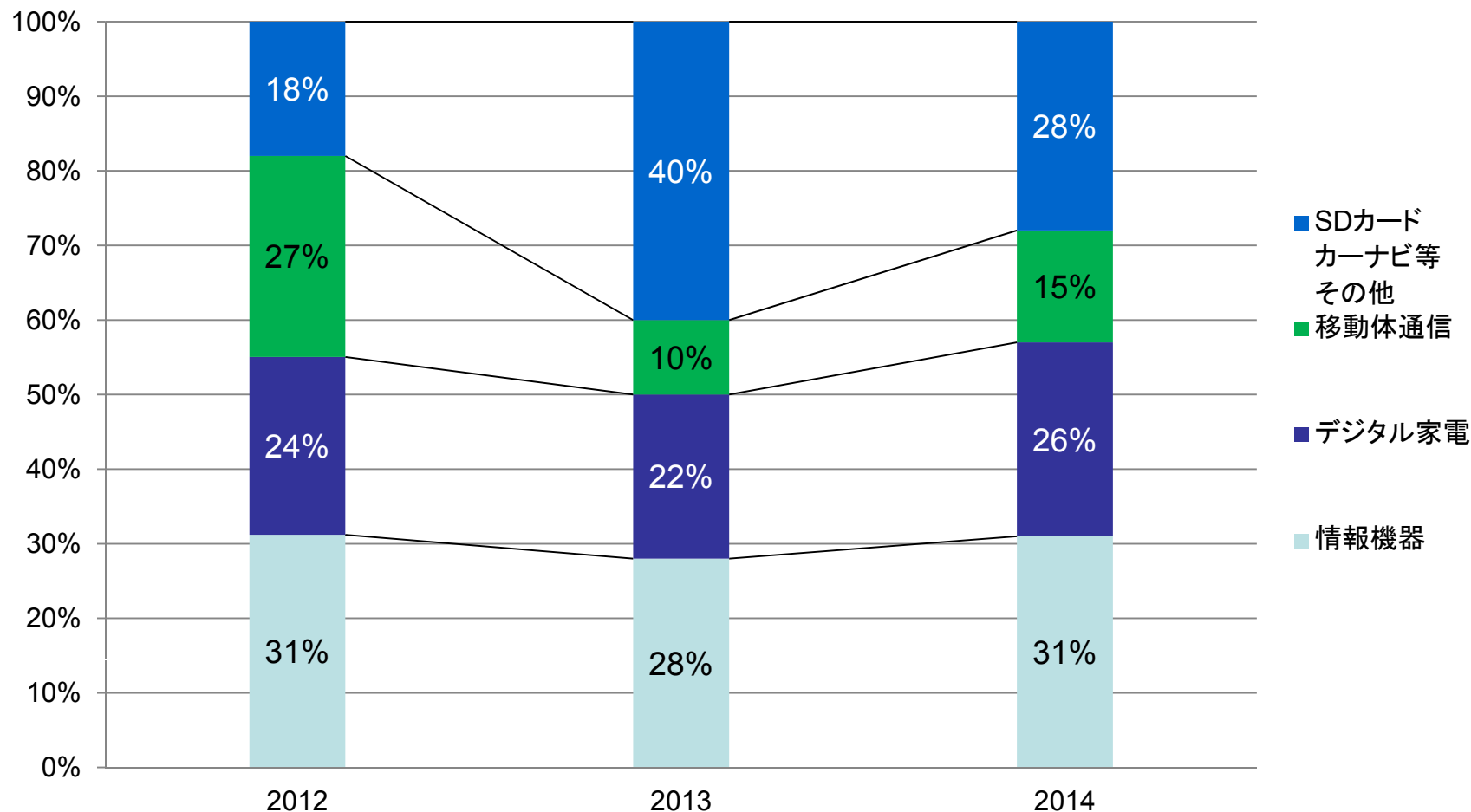
- PC需要の沈静化
- 液晶パネルの供給不足と価格競争
- 中国市場での競争激化
- 国内携帯端末メーカーのシェア減少
- デジタルカメラ需要 未だ光明を見いだせず

スマートフォン用CMOSイメージセンサ及び TV用バックライトLEDが大幅に伸びる



用途別売上高の構成推移

テレビ、スマートフォン及びタブレット向けが伸長



SDカード、USBメモリ、カーナビ等
移動体通信
デジタル家電
情報機器

SDカード、工作機械、カーナビ、アミューズメント等
携帯電話、スマートフォン等
BD、デジカメ、テレビ、電子辞書等
PC、タブレット、サーバー等関連機器

本日の内容

I

2014年度 決算概況

II

2015年度 見通し

III

2015年度 商品別の重点取り組み

2015年度計画

国内市場はやや縮小するものの、中国市場で
拡販活動を行い、対前年比で増収。

	14年度実績	15年度計画	増減	前期比
売上高	171,882	174,000	+2,117	1.2%
営業利益	2,435	2,000	△435	△17.9%
経常利益	1,681	1,600	△81	△4.8%
当期純利益	1,056	1,100	43	4.2%
1株当たり 当期純利益(円)	155.33	161.73	—	—
1株当たり 配当金(円)	40	40	0	—

※ 当期純利益＝親会社株主に帰属する当期純利益

2015年度見通し

Positive

- 中国市場においてスマートフォン市場はまだなお成長
- サーバー需要は引き続き堅調
- 4K対応テレビ、ウェアラブル端末は徐々に浸透すると予測

Negative

- 今期夏頃にWindows10リリースされる予定も、PC需要への影響は不透明
- 国内電機メーカー コンシューマ製品の不振続く
- 国内電機メーカー コモディティビジネスから社会インフラ等へのシフトが更に進む

ビジネスモデルの変革、及び、将来に向けた 商材・市場の開拓

ニーズ・情報の先取り ⇒ 当社自身での需要の掘起し・創造

成長期待
セットへの
シェア拡大

中国市場で
更なる
シェア拡大と
新規顧客の
拡大

新商材
及び顧客の
取込み

リスク
マネジメント
の徹底

海外

- 新興国向けのモバイル端末やデジタル家電への販売を強化
- 収益性の向上・改善

日本国内

- 既存事業の基盤強化を継続
- サーバー・ストレージや自動車など成長性・競争力の見込まれる分野にトータルソリューションの拡販

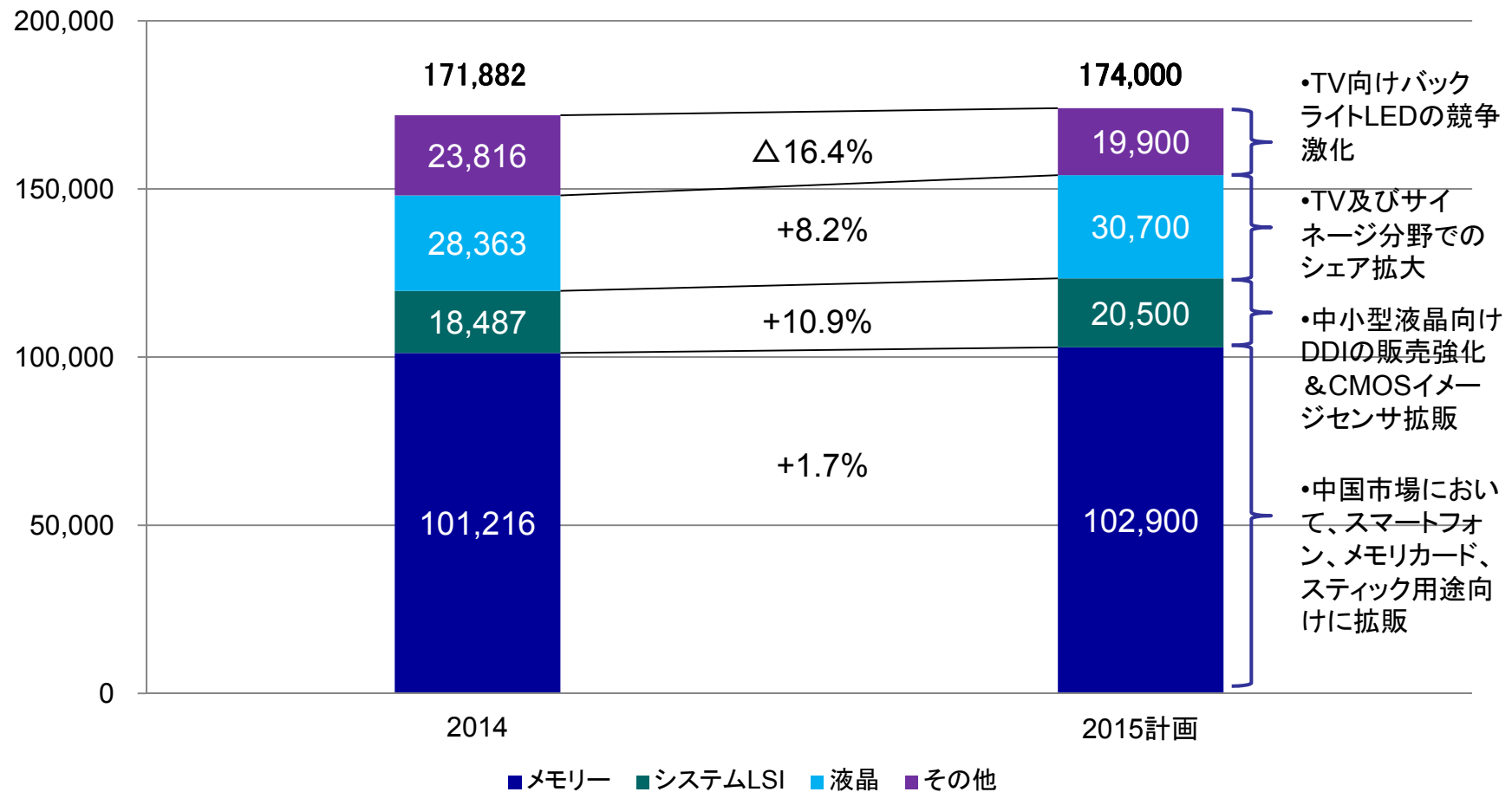
グループ全体～グローバル化への対応

- リスクマネジメントの徹底や人材育成
- 連結業績管理のための社内インフラの整備

2015年度 商品別売上計画

中国市場(特にスマートフォン、TV分野)の開拓と拡販

(単位:百万円)



本日の内容

I

2014年度 決算概況

II

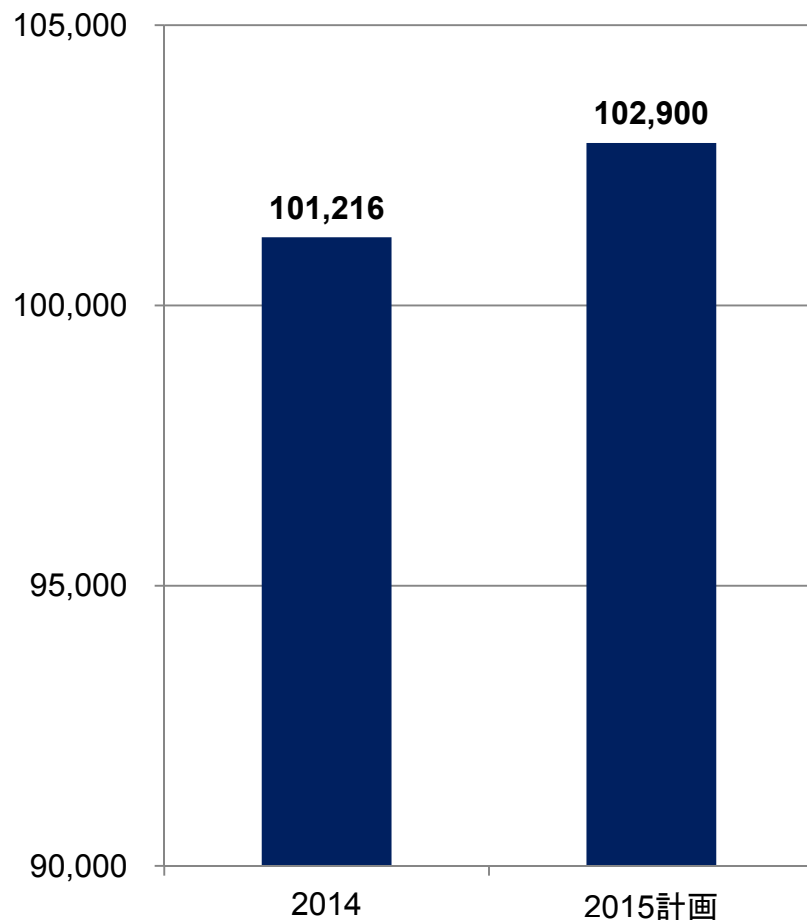
2015年度 見通し

III

2015年度 商品別の重点取り組み

メモリー分野

(単位: 百万円)



【DRAM】

- (LP)DDR4 DRAMを拡販

【NAND】

- 車載eMMCのデザインイン活動

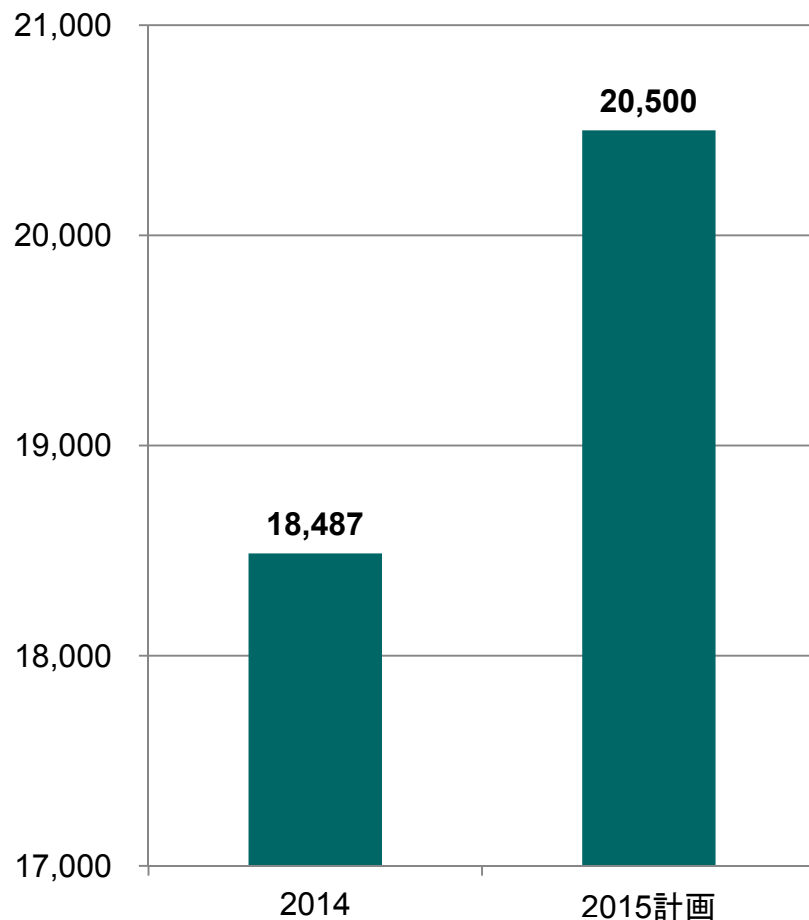
【SSD】

- サーバー、ストレージ市場への参入
- PCアタッチレートの拡大

【全体】

- 既存アプリケーションのシェアの極大化(PC、サーバー、携帯電話、デジタルカメラ)

(単位: 百万円)



【DDI】

- 中小型液晶へのデザインインの促進

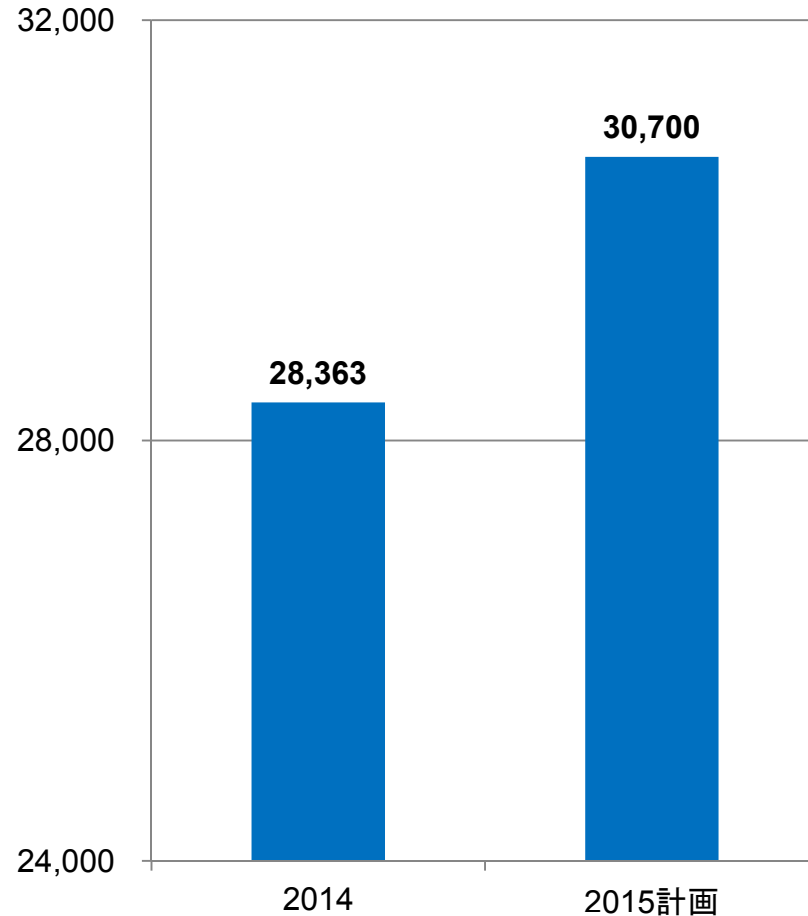
【CIS】

- 技術サポート力を強化し、中国市場を中心にスマートフォン向けへの拡販を継続

【AP】

- 採用に向けた提案活動を継続

(単位:百万円)



【モニタ】

- デザインイン案件を増加

【デジタルサイネージ】

- 開発促進を徹底

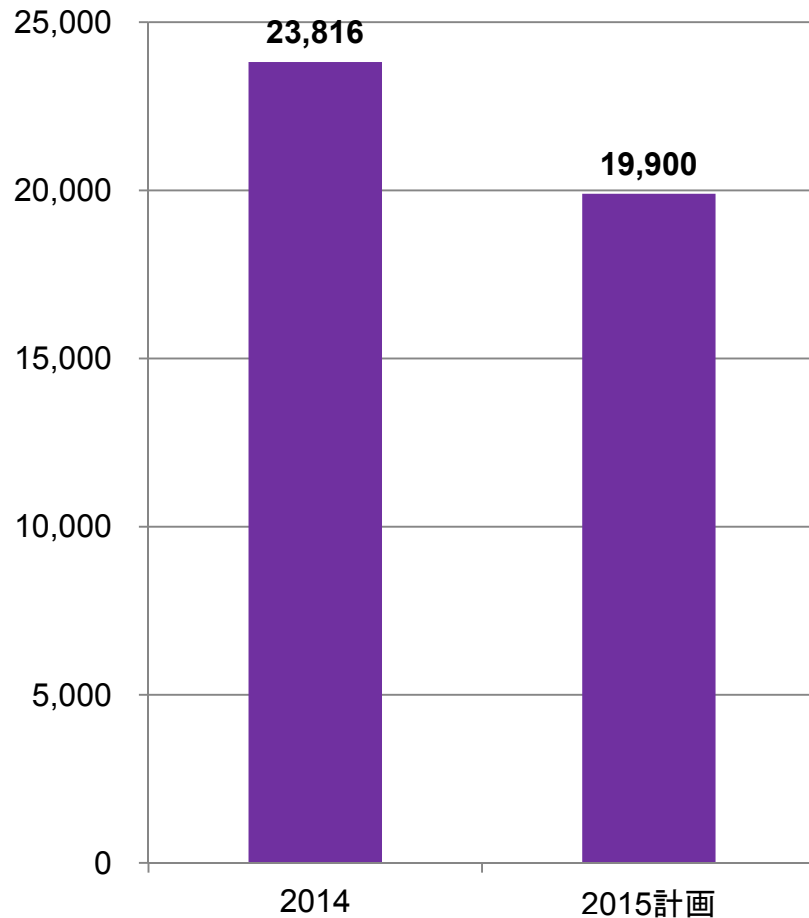
【TV】

- マーケットシェアを極大化

【全体】

- 新規案件の開発(特に中国市場)

(単位: 百万円)



【有機EL】

- スマートフォン・タブレット以外のアプリケーションへの採用に向けた開発推進

【LED】

- 中小型液晶TV向けへのデザインイン強化
- 従来の顧客・市場のシェア維持・向上

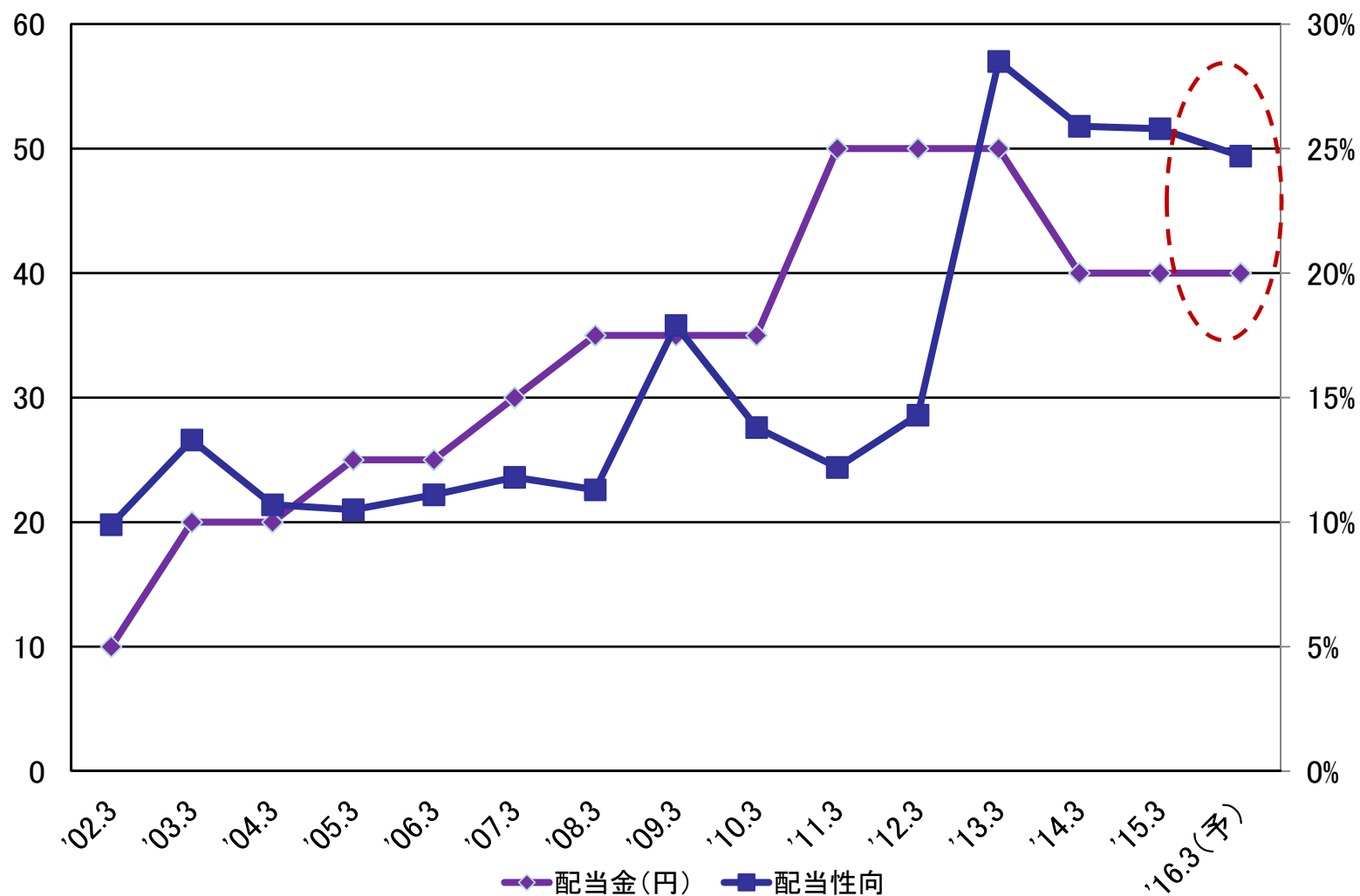
【全体】

- 新規市場・顧客開拓→ウェアラブル端末、車載など

(ご参考) 配当計画 (1株当たり)

連結配当性向は20～30%を目処。

(単位:円)



ご清聴ありがとうございました

